

子宮頸がんワクチン

子宮頸がんワクチン（HPV ワクチン）は、主に性交渉で感染するヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぎ、発症の 8～9 割を予防します。

小学校 6 年～高校 1 年相当の女性は無料で定期接種でき、キャッチアップ接種の特例措置も 2026 年 3 月末まで利用可能です。2 価、4 価、9 価の 3 種類がありますが、最近では 9 価ワクチンが主に使用されています。

【子宮頸がんワクチンの主なポイント】

- 対象と費用：** 小学校 6 年～高校 1 年相当の女性は公費（無料）で接種可能。
また、1997 年 4 月 2 日～2009 年 4 月 1 日生まれの女性で、
2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日までに 1 回以上接種した方は、
2026 年 3 月 31 日まで残りの接種を公費で受けられる特例
（キャッチアップ接種）があります。
- ワクチンの種類：** 現在は 2 価（サーバリックス）、4 価（ガーダシル）、
9 価（シルガード 9）の 3 種類が利用可能で、いずれも公費対象です。
- 接種回数：** 9 価ワクチンは、1 回目の年齢に応じて 2 回または 3 回接種します。
- 接種場所：** 基本的に各自治体が指定する医療機関で接種します（要予約）。
- 副作用：** 接種部位の痛み、腫れ、赤み、発熱、頭痛などが報告されています。
- 接種後の注意：** ワクチンを接種しても、全ての子宮頸がんを防げる
わけではありません。
20 歳以降は定期的に子宮頸がん検診を受けることが必要です。